内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2004年12月）

◎内海事務総局長から

今回のインド洋の津波の災害ほど残念なことはありません。何ゆえ、地震が起きてから何時間も後に津波で命を失わなければならないのでしょうか？　亡くなられた多くの方々の命は、津波の情報さえ伝わっていれば完全に防げたのです。

このことを考えると、情報社会サミットでの最重要課題であるとされているインターネットガバナンスの議論など、まるで空虚なものに感じます。

情報通信の分野にも、やはり、国家として何が最重要課題かしっかりと軸足を定めて取り組まなければならないのだということを痛感しました。

日本においても、かつて緊急警報ラジオの開発や、緊急時の優先通信制度などがありましたが、今はどうなっているのでしょうか？　民営化だとか、競争政策などの議論の中で、うっかり忘れていたものがあるような気がします。

◎12月の事務総局長の主な動向

12月6日　国連防災世界会議（神戸）対応

2005年1月18～22日に神戸で開催された国連防災世界会議（WCDR）において、ITUは緊急時におけるICTの役割というセッションを主催しました。そこで放映された私のビデオメッセージの録画を行い、自然災害予報・警報システムや、救命、援助、復興活動における通信手段、ICTの重要性とITU活動を紹介しました。その後、2004年末、スマトラ沖地震、インド洋津波の大災害が起き、アジア諸国が想像を絶する大きな被害を受けているのを見て言葉を失いました。今後、国際社会の協力のもと復興活動が続きますが、ITUが有している自然災害予報・警報システムの構築や災害時の電気通信手段の確保などのノウハウを十分に生かして、また他の国連機関と連携しつつ、同地域の復興に貢献していきます。

12月7日　サミット高級レベル組織委員会（HLSOC）作業会合（ジュネーブ）

2005年11月に開催するWSISチュニジアフェーズに向けて、サミットの準備状況について各国連機関で協議するHLSOC作業会合を開催しました。2003年に採択されたWSIS基本宣言及び行動計画に従って、各国際機関がどのような活動を行ったかをまとめる実績調査（ストックテーキング）の中間報告、また、WSIS行動計画の達成のための実施体制案についての意見交換を行いました。各機関とも、行動計画の実施には積極的で、ILOは人材開発、UNESCOは文化の多様性など、WHOはE-Healthなどと、各機関の担当分野が次々と表明されました。

WSISチュニジアフェーズでは、インターネットガバナンス、デジタル・デバイド解消のための財政問題の解決とともに、WSIS行動計画を確実に実施し情報社会を構築するための具体的な実施体制を組織化することも重要課題となっています。

12月8～10日　第5回グローバル規制体シンポジウム（GSR）（ジュネーブ）

各国の規制体のトップレベルが出席して、携帯電話、インターネット、ブロードバンドなどの普及に沿った規制的枠組みなどについて意見交換を行う第5回グローバル規制体シンポジウムを、アバルナシーFCC委員を議長として開催しました。英国通信庁（OFCOM）議長をはじめ各国の規制体から各国の状況が発表され、2015年までに世界中がネットワークに接続するというWSISで採択された目標や、情報社会構築に向けた取組などが議論されましたが、ネットワークに公正で適切なアクセスを促す規制的枠組みを世界的に広めていく見解が大勢でした。

12月13～14日　ITU理事会WSIS作業班（WG-WSIＳ）（ジュネーブ）

ITU理事会の決議に基づいて、WSISへのITUの貢献を議論するWG-WSISを開催しました。メンバー国の関心は、WSIS後の国際的なフォローアップ体制にITUがどのように関与するのか、また現在国連事務総長のもとの作業班（WGIG）で検討中のインターネットガバナンスにITUがどのように関与するかが議論の焦点となりました。いずれのメンバー国も、これまでWSISをリードしてきて、ICTの専門機関であるITUが、十分に関与していくべきということでは意見が一致していますが、具体的な関与の方法については、今後、ITU理事会に向けて引き続き検討することとなりました。

12月15～17日　ITU電気通信開発アドバイザリグループ会合（TDAG）（ジュネーブ）

ITU電気通信開発局（BDT）の主要な活動や財政事項について議論するITU電気通信開発アドバイザリグループ会合を開催しました。私からは、BDTがこれまで多くの途上国で活動を実施して高い評価を受けている一方で、世銀やUNDPが広く一般的に認知されている現状から、更なる効果的なBDTの活動が必要であることを訴えました。

このほかに、会議のなかでは、ITU理事会にオブザーバとして出席できるセクターメンバーの選出方法、財政的制限のあるなかでITU公式言語の6か国語をどのように扱うかなどが議論されました。

12月16～17日　WSIS準備会合議長フレンズグループ（GFC）（ジュネーブ）

2005年2月17日から開催される第2回WSIS準備会合での議論のベースを作成するGFCが開催されました。WSIS準備会合の議長を務められているラトビアのカークリンス大使は、2003年のジュネーブフェーズでの状況をよく分析されていて、集約が難しい議論を、よく整理して各国をリードしていて感心いたします。ただ、インターネットガバナンス、デジタル・デバイド解消のための財政問題などWSISチュニジアフェーズの“目玉”となる項目は、まだ深く議論されていませんので、これから各国間の議論も激しさが増してくることでしょう。

ジュネーブの独立を守った戦勝を記念するエスカラードの祭り（12月）　撮影：内海善雄

お詫びと訂正　1月号の「ジュネーブ便り」中、WSIS開催年度で「2004年」とあるのはすべて「2003年」の誤りです。謹んでお詫びするとともに訂正させていただきます。

（『ITUジャーナル』編集部）